

(様式第4号)

認知症高齢者等支援ネットワーク協議会 会議概要

- 1 審議会名 上田市認知症高齢者等支援ネットワーク協議会
- 2 日 時 平成26年3月24日 午後1時30分から午後3時00分まで
- 3 会 場 市役所本庁舎6階 大会議室
- 4 出席者 飯島会長、宮入副会長、遠藤委員、佐藤委員、友野委員、中村委員、鷹野委員、手塚委員、金井委員、辻委員、宮下委員、松井委員、母袋委員、大林委員、齋藤委員、中澤委員、水上委員、清水委員、南波委員
- 5 市側出席者 徳永高齢者介護課長、小川高齢者介護課高齢者支援担当係長
- 6 公開・非公開等の別 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
- 7 傍聴者 0人 記者 0人
- 8 会議概要作成年月日 平成26年3月25日

協 議 事 項 等

- 1 開 会 (高齢者介護課長)
- 2 会長あいさつ
- 3 協議事項
(1) 平成25年度上田市認知症施策について(介護支援担当係長)
 - ・資料に沿い、介護支援担当係長から概要を説明
 - ・以降、協議
- (委員) 徘徊の搜索に携わっているが、認知症の方も多い。搜索にかなりの人手・時間がかかる。徘徊高齢者位置情報システム(GPS)についてもう少し詳しくご説明いただきたい。
- (事務局) 推進している事業ではあるが、利用者数が少ないのが現状。一番の原因は、このGPSの機械を持ち歩かないと場所が探知できない。小型ではあるが携帯電話位の機械を認知症の方が持って出かけるという事が難しいので、身に付ける物の仕組みに変えてもらえないかと我々としても事業者と現在相談をもちかかっているところである。例えば、ネックレス式や腕時計式など身に付けられる形。我々としてもこの事業が役立って欲しいと考えている
地域包括支援センターで徘徊高齢者の方の登録制度を取り、何かあった時にいろいろな情報がすぐに搜索隊にいくようなしくみ作りも進めている。
- (委員) 日常生活給付事業について 認知症の方が消火器を適切に使えるかという疑問がある。
- (事務局) 熱感知式の自動消火器を給付している。(ガス台の上に設置)
一人暮らしの認知症高齢者等で設置を勧めている、緊急通報装置にも熱感知式の火災報知器がついている。併せて仕組み作りを考えていきたい。
- (委員) GPSの補助金はいくらか。
- (事務局) 設置料7000円と基本料金月額500円限度額に対して、これを助成するというもの。
- (委員) 緊急通報装置の普及率はどのくらいか。
- (事務局) 普及率については、1200台程度。上田市の一人暮らし高齢者の内1/3は設置済みという状況。長野市は上田市の人口の3倍だが、普及台数は少ない。松本市も少ない。上田市は普及率

は高く、設置が進んでいるという状況。

(委員) QRコードを発行している方の中で、早期発見に至った事例はあるか。

(事務局) 事例は無い。

(委員) 認知症地域支援推進員について詳しく説明してほしい。

(事務局) 認知症の問題では、特に医療と介護連携やサービスの調整など非常に難しい部分があるので、推進員が認知症地域支援推進員がコーディネートして中に入るといった役割を担っている。医療連携やケア会議に出席して調整をしている。

(委員) 現在、認知症地域支援推進員は何人いるのか。

(事務局) 全国で175人。長野県で7市町村。認知症施策総合推進事業を実施する絶対条件に認知症地域支援推進員の配置があるので、県内には7名の推進員がいる。上田市には1名。

(委員) やすらぎ支援員はどのような役割を担っているのか。

(事務局) 認知症の方を介護している家族支援事業。認知症の方の話し相手としてボランティアとしてやすらぎ支援員の派遣をしている。派遣にあたっては、事前に認知症の程度などについて認知症地域支援推進員が訪問して評価をし、派遣している。またやすらぎ支援員に対しての相談・支援も行っているが、大変喜ばれている事業で、医療や介護サービスにつながり、利用者も増えている。今後も積極的に推進していきたい事業である。

(委員) 具体的にはどういった方が支援員になっているのか。

(事務局) こちらで支援員の養成しているが、現在登録されている方は60歳以上の方。現在の登録者数は19名である。

(2) 今後の認知症施策の取組について(介護支援担当係長)

- ・資料に沿い、介護支援担当係長から概要を説明
- ・以降、協議

(委員) 第6期上田市介護保険事業計画の策定は、平成26年までになっているが、これが第6期ということか。

(事務局) 介護保険事業計画は3年に1度策定する必要があり、現在は第5期期間中だが、平成27年度からの3年間分第6期計画を平成26年中に策定しなければいけない。オレンジプランが出たのが平成25年なので、どこの市町村も認知症施策については新たな取組になってくる。

(委員) 誰が事業計画を作るのか。

(事務局) 基本的には上田市。介護保険運営協議会に諮問答申を行なう。

(委員) 協議会の回数は、1年に何回くらい開かれるのか。

(事務局) 協議会の回数は、その年によって様々だが、計画策定の年だと、恐らく7~8回は開催する。市民の皆様にも計画ができる前の段階でインターネット上で、ご意見を公募し、公開している。各地で説明会等も開催していくなどの作業は進めさせていただいている。

- (委員) それは周知していただくと、より協議しやすいと思う。
上田市では、非常にたくさんの方に認知症サポーターになっていただいているという事、とても素晴らしいと思う。私のイメージで言えば、中学校区の人が皆身近なところで、認知症の事を理解していれば、割と良いケアができるのではないかと。GPSなどの機械も大事だが、このサポーターの人数を増やしていくというのは、上田市の認知症施策ではとても有効なのではないかと思う。認知症の理解者を増やせば、他の施策もスムーズに行くのではないかと思うがどうか。
- (事務局) 全くその通りで、今の認知症サポーター養成のしくみというのが、高齢者介護課を中心にキャラバンメイトを養成し、キャラバンメイトがサポーターを養成していくのだが、ある程度のところでは限界がある。社会教育として進めていかないと広がっていかない。学校にも働きかけてサポーター養成講座の開催をお願いしたりしている。本日消防団の方もおられますが、職域や先程ご指摘をいただいた中学校区等で開催し、養成先の方を変えていかないと今後サポーターを大きく増やしていくという事にはならないと考えている。
- (委員長) 恵那や中津川では、高校生を対象にサポーター講座をしている。若い世代に輪を広げていく。若い内から老いというものを知る良い機会になると思う。そんな事もお願いしたい。
- (事務局) 学校でやった際には、認知症のことだけではなく、人権を考える良い機会になったと学校の先生方も喜んでいたので、今後その様な方向に勤めていきたいと考えている。
- (委員長) 事業計画に対して協議会の皆さんの忌憚のないご意見をいただきたい。足元でこんな事が問題になっている...など。
- (委員) 民生委員の改選もあったが、サポーター養成講座を受けていない民生委員もいる。講座を開催するには、地域包括支援センターに依頼すれば、良いのか。
- (事務局) その通りです。講座は1時間30分位かかる。
- (委員) 認知症というが、どこまでが認知症なのか、教えていただきたい。
- (委員) 病気と病気ではないという境は非常に難しい病態。社会の中で一人で生活できるというのを一つの境界にしている。一人暮らしが可能なレベルの認知症であるのか、応援が必要なレベルまで認知(知能)が落ちているかどうかで線を引きます。本人に「認知症」と告げずに「物忘れが少しずつすすんでいますね」と伝える事もある。どういうレベルでどなたに情報を開示するのも相当ばらばらしている。
- (委員) 最初に認知症に気づいた時にどこに相談に行くかが大事だと思う。
- (事務局) 様々な相談先を明示していくことが、認知症ケアパスの大きな役割。
- (委員) 最初に行った相談機関は、とても大事。市町村だからこそ、初期の窓口については良い案公正にできるシステムを作るのは大事。
- (委員) オレンジプランについて 認知症になっても本人の意思が尊重され・・・とあるが、認知症の方本人は、自分で判断ができない。プランそのものの本質は何か、どういう意味をさしているのか疑問に思う。
今年度に入って、今日現在で21人の方は行方不明になって捜索にあたった。その内3人が認知症だったという事が報告されている。しかしながら家族に聞き取りをした際、後から認知症だったと知らされたり、家族が認知症だったことを知らなかった...という家族少なくない。特

に身近にいる家族が一番理解していないが為に初期の診療が大変遅れてしまったというケースが少なくない。是非その点をケアパスの中に盛り込んでもらいたい。相談する機関はあるが、日中仕事をしている家族が休日あるいは夜間相談できる窓口についてもケアパスに反映していただきたい。

(事務局) 今後の高齢化を考えると、社会保障費の負担が拡大するが、その費用をどのようにするのかという問題だけではなく、認知症の方本人が意思表示できる間にどこで暮らしたいか、本人が、また家族が何を望むかを創り上げていかなければいけない。認知症の方や家族をサポートできる仕組みづくりやサービス体系を変えることで、ある程度実現することは可能ではないかと考えている。今いただいたご意見を参考にしながら本人や家族にとって、良い情報源となるようにケアパスを作っていきたいと思う。

(事務局) それでは、以上をもちまして、平成25年度 第2回上田市認知症高齢者等支援ネットワーク協議会を閉会といたします。ありがとうございました。」